

# 灘区医療介護サポートセンター便り



2024年(令和6年)5月 第9号

発行 灘区医療介護サポートセンター

住所 灘区水道筋1丁目24 灘区医師会館内 電話 078-801-1120 FAX 078-801-1121

新年度に入り、多忙な日々をお迎えのことと思いますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

日頃より、多くのご協力を頂き誠にありがとうございます。



「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

「サポートセンター便り」では、医療・介護・福祉職の皆さまの連携に役立つ情報や研修会等の活動報告を発信してまいります。

## ご挨拶

### 灘区医師会会長

#### 灘区医療介護サポートセンター センター長 岡田司郎先生

近年、医療や介護においても、医療 DX が推進されて、様々なことがデジタル化されています。つい数字だけに目がいきってしまい、大切なことが置き去りされてしまうことがあると思います。

サポートセンターでは、医療と介護におけるさまざまな悩みや問題に対処します。なにかお困りごとあれば、些細なことでも気がねなくご相談ください。今年度からは、フレッシュな3名の医師に仲間に加わってもらいました、どの先生も気安く、話しやすい方々ですのでよろしくお願い致します。



### 灘区医師会理事

#### 灘区医療介護サポートセンター 副センター管理責任者 桑原元先生

この度、灘区医療介護サポートセンター副センター管理責任者の任を仰せつかった桑原元といいます。医療介護サポートセンターの仕事について右も左もわからないままセンター長である岡田司郎先生にお誘いいただきました。嬉しい反面不安なことも多々ありますが、コーディネーターの西面様、長友様にサポートをいただきながら、微力ではありますが精一杯仕事をしていきたいと考えております。介護とは縁遠い泌尿器科医ではありますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



### 灘区医師会

#### 灘区医療介護サポートセンター 副センター管理責任者 谷本直樹先生

このたび、医療介護サポートセンター副センター管理責任者を拝命しました。父が灘区で精神科診療所を開業し、現在は私が継承し、精神科領域の患者さんの助けとなれるよう努めています。当院の患者さんの中にも、介護・福祉を利用している方がたくさんおられ、生活を維持するうえでも必要となっています。そのような医療介護に、少しでも力添えができるよう、ご指導のほどよろしくお願い致します。



### 灘区医師会

#### 灘区医療介護サポートセンター 副センター管理責任者 松本佑介先生

松本内科・呼吸器クリニックの松本です。訪問診療を行う中で、医療と介護の相互連携の重要性を痛感することが多々ございました。灘区医療介護サポートセンターに参加することで、微力ですが少しでも皆様のお役に立てればと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。



### コーディネーター 長友まゆみ 西面明子

今年度もよろしくお願い致します。

医療と介護の連携に関すること、どこに相談すればよいかわからなくて困っていることなど、気軽にサポートセンターまでご相談ください。一緒に考えさせていただきます！



## R6 年度の研修会予定

参加費 無料

### 2024 年度 灘区医療・介護関係者の研修会

#### 1) テーマ：つながろう！通所介護・通所リハビリ！

\*コロナ後の顔の見える関係づくりの再開、地域との連携や事業所間の連携について、情報・意見交換をしませんか？  
神戸市福祉局 監査指導部からのミニレクチャーも予定しています。通所系事業所の皆さまぜひご参加ください！

【日時】6月13日（木）時間は18：00～19：30

【場所】灘区文化センター 5階大会議室



#### 2) 「食支援—第2弾—」「食べる」を支える多職種連携～安全に「食べる」支援と食の情報共有～

\*多職種が協働し“食べる”を支えることが地域での食べる力を高めます。高齢者が食事をとれなくなる原因はいろいろあります。食事摂取の改善に関わる専門職から支援のポイントなどもお聞きしながら、事例を通して学ぶ機会です。

【日時】6月26日（水）14：00～15：30

【場所】灘区文化センター 5階大会議室



#### 3) 「震災を振り返って」～そこから見える医療と介護・福祉の連携課題～

\*30年前の震災や昨今発生した災害を振り返り、被災時の行動や活動から見た課題から、災害時に途切れない医療・介護・福祉の具体的な連携の実現、具体的なBCPのシミュレーションに向けてみんなで考えてみませんか？

【日時】7月20日（土）午後

【場所】灘区文化センター 5階大会議室

#### 4) テーマ：多問題を抱えている方への支援 ～事例を通して～（仮題）

\*医療的介入を拒否する方、生活環境に問題を抱えている方、発達障害や精神障害のある方などへの支援について一緒に考えてみませんか？

【日時】7月24日（水）時間は14：00～15：30を予定

【場所】灘区文化センター 5階大会議室



#### 5) 「食支援—第3弾—」～認知症の嚥下障害（仮題）～（共催：灘区医師会・灘区歯科医師会・灘区医療介護サポートセンター）

\*認知症には種類それぞれに異なる症状が現れることで知られています。認知症の種類ごとにみる摂食嚥下障害の症状の特徴について学ぶ機会です。

【日時】調整中

【場所】未定

### 第16回認知症医療連携勉強会（共催：灘区医師会・灘区医療介護サポートセンター）

内容：講演、グループワークを予定

【日時】未定

【場所】シマブンビル内会議室またはホールを予定



### 第21回さくら塾～灘区多職種連携研修会～

（主催：灘区在宅ケア推進会・灘区医療介護サポートセンター）

テーマ：災害時の協働に向けて

【日時】8月24日（土）時間は14：00～16：30を予定

【場所】灘区文化センター 5階大会議室



### 拡大版 病院と在宅の連携研修会

（共催：灘区医療介護サポートセンター・東灘区医療介護サポートセンター）

【日時】10月10日（木）時間は18：30～20：30を予定

【場所】灘区文化センター 5階大会議室



（名刺をご用意ください）

### 第22回さくら塾～多職種連携研修会～

（主催：灘区在宅ケア推進会・灘区医療介護サポートセンター）

テーマ：未定

【日時】2025年2月15日（土）時間は14：00～16：30を予定

【場所】灘区文化センター 5階大会議室

## 研修会開催報告

### 令和5年度 灘区内の病院と在宅との交流会 ～みんなで考えよう！ブラッシュアップ退院支援！～

\*望む場所へスムーズに退院し、再入院せず、安心して過ごしていただきたいと関係者皆が願っています。  
しかし、実際には退院がうまくいかない困難ケースがあり、病院・在宅共に悩みながら支援をされているのではないのでしょうか？今回は、このような退院支援に困った事例について、皆で考え、意見交換を行いました。  
また、顔の見える関係作りの機会となりました。

日 時: 令和5年 10月23日(月) 15:00～16:30 灘区文化センター5階 大会議室

内 容: ①灘区の病院機能について「灘区の病院の特性を知ろう」  
②グループワーク「退院支援が困難なケースについて考えよう」

参加者: 47名



今回は、

- ① 灘区の病院機能について理解する
- ② 事例を通して病院と在宅との理想的なタイミングや支援内容について話し合うことで、今後連携をする上での気づきを得られる

ことを目的に、灘区内の病院からそれぞれの病院機能についてお話いただきました。事例検討では、退院支援に困った事例(複数の疾患を抱え、家族の介護力に問題がある、介護保険未申請の高齢入院患者)についてグループワークを行いました。また、研修会終了後には、電話でしか対応したことがない方との名刺交換などが活発に行われ、顔の見える関係作りの場となりました。

(グループワークから)

「目標を共有し、早めの情報共有が必要なこと」「病院側は目途がついてからの連携を考えていたが、もっと早くてもいいこと」「担当するケアマネジャーがいない新規申請の場合の、病院の情報提供のタイミングと内容の大切さ」「介護度が決まらなると在宅側は動きにくいこと」などが挙がっていました。どのグループも、早い時期にコミュニケーションをとることの大切さが話し合われていました。

### 第20回さくら塾～灘区多職種連携研修会～「食べる」を支える多職種連携

日時: 令和6年2月17日(土) 14:15～16:30 灘区文化センター5階大会議室 参加者: 82名

内容: 1) 講演「嚥下の仕組みとその障害を理解する」 講師: 柴耳鼻咽喉科 院長 柴裕子 先生

報告「2023年度 食支援に関するアンケート」集計結果報告

2) パネルディスカッション「食支援でのそれぞれの職種の役割と相談方法について」

座長: 灘区医師会 理事 堅田医院 院長 堅田 真司 先生

パネリスト: 灘区医師会 柴耳鼻咽喉科 院長 柴 裕子 先生

灘区歯科医師会 常務理事 入江歯科医院 院長 入江 庸介 先生

神戸海星病院 栄養部 課長代理 管理栄養士 小林 智子 氏

愛のき訪問看護ステーション 言語聴覚士 尾上 功典 氏

スナメリ訪問看護ステーション 管理者 看護師 屋敷 孝子 氏

セントケア六甲 主任介護支援専門員 鈴木 ちどり 氏



パネルディスカッションでは「食べる支援」へのそれぞれの役割や関りをそれぞれの立場からお話いただきました。

(講評から)

「食べる」ということは大切です。日本のように介護の方々が一生涯懸命食べさせているところは珍しく、それば日本の良さでもあるのかと思います。最後まで食べられるように努力していきましょう。ぜひとも担当者会議を開いて、医師も呼んで、患者さんを囲んで皆で話し合うのがよい。今回は豪華なメンバーで有意義な時間を持つことができました。これからも連携を大事にしていきたいと思います。

(質疑応答から)

Q1. 鼻咽腔閉鎖障害により、食事が常に鼻から出てくる時があり、姿勢や一口量など整えていきましたが、他に気をつけなければならない事ありますか？80代、失語症あり、発語訓練などは出来ません。

A1. 失語があるということは、脳血管障害後遺症ですか？

リハビリが難しいようですので、ご指摘のように食事時の姿勢、食事内容、遺徳治療など介護側の工夫するのがメインになるでしょう。

Q2. 義歯を何度も紛失する患者さまに義歯は必要でしょうか？

A2. 認知症の診断がある方は保険内で再製作できます。ただ、保険といえ費用がかかりますので、ご家族の判断でとなります。

入れ歯は顔のしわ、ハリにも関わりますし、歯ぐきのやけど予防にもなります。流し込む食事ばかりでは栄養が偏りますし、患者さんの状態を見て判断するのがいいかと思います。

(参加者アンケートから)

- ・食支援は、全ての職種、立場の職業の方や、利用者、ご家族と誰もが関心を持ち、知りたいと思うが、難しく考え過ぎず、関われる所から興味を持ち経験することが大切なのだと思感した。
- ・各職種によって考え方を知ることができてよかった。専門職によって評価や考え方も違うと思うので、困ったケースで迷わず相談していけるようになったらと思う。
- ・意思疎通、状況の把握をするためのツールが必要だと感じた。今回のテーマに限らず、他職種が何を必要としているかを把握するためにもインフラの整備が必要。

## 灘区医療介護サポートセンターについて

「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

＝具体的な機能と役割＝

### ●在宅医療に関する相談窓口

医療、介護の関係者からの在宅医療に関する相談に対して、コーディネーターが必要な情報提供や支援・調整を行います。

### ●地域の在宅医療・介護資源の把握

地域ごとに、在宅医療に取り組む病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設などの情報を収集し、関係者間の連携・調整に活用します。

### ●多職種連携の推進(多職種連携会議の開催、医療・介護関係者への研修)

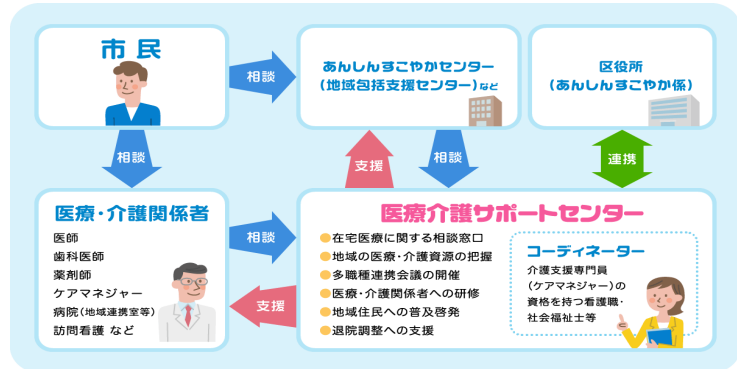
地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、お互いの業務の現状を知り、顔が見える関係づくりを目的とした、多職種連携会議を開催します。また、医療・介護等の専門職を対象とした、在宅医療・介護に関する研修会を開催します。

### ●地域住民への普及啓発

市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした講演会などを開催します。

### ●退院調整への支援

退院調整は医療機関が実施することが前提ですが、諸事情により十分な退院調整を行うことができない場合等、退院後の円滑な地域移行に支障がある場合は、当該医療機関(地域連携室等)からの要請に応じて、医療機関が実施する退院調整への支援を行います。



## 相談対応から

### 【往診医と支援について】

80代、独居 息子夫婦が他区に在住  
かかりつけ医なし

息子夫婦が様子を見に行ったところ、ほぼ寝たきりの状態になっており、救急車を要請したが本人の強い拒否により搬送に至らなかった。果汁やお茶などしか口にしていない。紙パンツ着用しているが這ってトイレに行っている様子。本人は「死にたい」と口にしている。往診を勧めたいと考えているので、往診可能な医療機関をおしえてほしい。また、支援の方向性を共に考えてほしい。

対応➡相談者と共に相談内容を整理し助言を行い、初診から往診の相談可能な医療機関についての情報提供を行いました。

### 【訪問診療・往診医について】

90代、男性、要介護5

妻(軽度認知症)と二人暮らし。区内近隣に長女と次女が居住 既往:腹部大動脈瘤、前立腺肥大、等  
A 病院からの紹介で急性腎盂腎炎治療後の廃用、リハビリ目的の入院中。

ペースメーカー装着、月1回バルン交換が必要。急変時はCPR(心肺蘇生法)を希望しない方。

担当ケアマネジャーからサポートセンターを紹介された。

対応➡灘区資源マップから複数のクリニックについて情報提供を行いました。

### 【皮膚科往診医】

80代、女性、要介護5、認知症あり、灘区の山側に在住

現在、B 病院に入院中。もうすぐ退院予定で、先日退院前カンファレンスをした。

踵に穴が開いているので処置が必要。居住地まで往診可能な皮膚科を探している。

対応➡区内複数の皮膚科に問い合わせ。うち2か所から対象者の居住地への往診可能と返答があり、相談者にお伝えしました。



## 医療介護サポートセンター ホームページのご案内

医療介護サポートセンターのホームページでは、各区サポートセンターの紹介やお知らせ、市民講座、研修案内、活動報告などご覧いただくことができます。ぜひ、ご利用ください。

URL:<https://kobe-iks.net>



## 灘区医療介護サポートセンターのページ

URL:<https://kobe-iks.net/area/nada>

二次元コードはこちら



【編集後記】新年度がスタートして、早くも1か月が経ち、晴れ渡った空に、新緑の木々…すがすがしさを感じる季節になりました。

春は、気候はもちろんのこと、新しい職場や新しい仲間、引っ越しなど「変化」の多い季節です。

気温高低差に伴う体温調節や、新しい環境での心の疲労など、いきなりの変化に順応できず、体と心にストレスを与えてしまい、メンタル面を支える自律神経も乱れがちになります。自分のストレスサインを知っておくことが大切です。ストレスサインに気づいたら、休息をとったり、気分転換をするなど、早めにセルフケアをしてください。

また、これから暑い季節に向かいますが、みなさまお体にはくれぐれもお気を付けください。

